
流星のロックマン～光輝く絆～

ペガサス・キングダム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロックマン〜光輝く絆〜

【Nコード】

N1142BA

【作者名】

ペガサス・キングダム

【あらすじ】

メテオGの脅威が去ってから数ヶ月後、物語は冬休み前日から始まる。

今年は事件が多かった年なので冬休みが少なかった。
しかし矢継ぎ早に事件が起きる

これに対して蒼き流星はどうするのか？
真実を知るために少年は戦う。

プロローグ（前書き）

どうも！作者です！

初投稿なので文章力乙ですが

未永くよろし『うつせえ！さつさとはじめる！！』

．．．．．へい．．．．．

（ウォーロックめ．．．いつかこの恨み．．．）

ブローグ

くブローグく

「ひいつ！た・助けてくれえ！」

『うつせーんだよ！守り神だかなんだか知らねえが消えな！』

『まあまあ落ち着きなつて。』

その電波体はそう言うとおもむろに槍を取り出した。

『喰らえ！』

『うつうああああああ！！！！』

『あゝあまた殺っちゃったの？』

『ボスに怒られるよ？』

『ヘッ！いいんだよ人間の一人や二人』

そう言うてその電波体達はその場から去っていった。
・・・その場に「DN」と書かれたカードを残して。

~~~~~

場所は変わり、ここはコダマタウン。

『起きろおおおおおおおおお！！！！！！』

『スバルうううううううううううううううう！！！！！！』

近所迷惑なぐらい叫んでいるのは世界を3度救った英雄  
ロックマンこと星河スバルである。

「うるさいよ。ウォーロック」

『うるさいもなにもあるか！時間見てみる！！』

現在の時刻は8：20分である。

学校の登校時刻は8：30分である。

「うわあああああ！やばい！」

「遅刻するううう！！！！」

「スバル！委員長さん達が来てるわよ」

「げっ！！やばっ！！」

「ごはんいらなから！！」

「スバル！ご飯食べないと元気でないわよ！（実話です）」

しかしスバルはお構いなしだ。

「ウォーロック、電波『いやだね、お断りだ！』ええ、そんなこと  
といわずに」

『仕方ねえな。「ありがと!」ケツ!貸しだぜ!』

「トランスコード!シューティングスター・ロックマン!」

『ちなみに、貸しだぜ!』

「・・・わかった・・・」

## プロローグ（後書き）

『ポロロン 早くわたしたちを出しなさい。』あれ、さっきも同じことだった気がするわね』

「そうだよ！はやくスバル君に告○したいのに！」「あれ？さっき同じことだった気がする」

ギクツばれてんのか？

作者がふがないばかりに  
短編にしちゃって作り直したこと・・・

『へえ！そんなトリックがあつたのね』

え・・・？あ、いやこれには深い理由ワケがありまして・・・

「うるさい！次話いく！」

ミ・・・ミソラちゃんコワイよぉ

というわけで前作読んだ人は大変申し訳ありませんでした。  
ほんとに次話どうぞ

## 第1話 3人の転校生（前書き）

どうも！作『うつせえ！出番よこせ！』ちょｗｗわオーロックｗｗ  
前書きぐらいやらせ『ビーストスイング』うつわあぶね！  
もういいや出番減らすから。

『すいませんでした！……！……！』

それでよろしい！

では本編スタート！

## 第1話 3人の転校生

「トランスコード！シューティングスター・ロックマン！」

『ちなみに、貸しだぜ！』

「・・・わかった・・・」

（ん？この周波数は・・・！？いや、あいつらは消去（デリー  
ト）したはず・・・俺の勘違いだといいいんだが。）

「あ！あれは！」

『どうしたスバル？ 敵か？』

「あ、いや家の入り口見てみて？」

そこには大量のマスコミがいた。

『お前も大変だな』

そうつぶやいて2人は学校へと向かった

~~~~~

「ぎりぎりセーフ！」

「『ぎりぎりセーフ！』じゃないわよ！」

「？」

「あなたのせいで私たちまでチコクしそうになったじゃない」

この人は白金ルナ。クラスの委員長を務めている。

しかしみんな本名でよばない。委員長と呼んでいる。

「そうですよ！スバル君！ぼくらまで委員長の説教に付き合わされるんですよ！」

こいつは最小院キザマロ。頭がよくて、その頭脳は高校生に負けず劣らずだけど、

背が低いのを気にしている。

「そうだぞ！スバル！だから牛井奢れ！」

この人は牛島ゴン太腕っぷしが強く、
たよりになる。でも頭が悪い。

みんな個性が歩けどみんな大切な親友だ。
フレーザー

「そんなことより今日は転校生が3人も来るらしいですよ！」

「そうね・・・右も左もわからない転校生に色々教えるのも
チームルナルナ団の使命よ！」

正直そこまでしなくていいとおもう。
するとそこで先生が入ってきた。

「みんな～席につけ～」

第1話 3人の転校生（後書き）

目指せ！1日5話投稿！！

てなわけで仮眠を・・・ZZZZ

第2話 屋上での出来事（前書き）

今書きだめしいていますが、長期にわたって連載できない可能性が
あるのであしからず。
では本編をどうぞ！

そして爆弾は落とされた。

「私、スバル君の隣がいいです!」

「・・・だ、そうだが星河いいか？」

「ふえ？なにがですか？」

突然の出来事にスバルは腑抜けた声をだしてしまった。

「だから星河、響がとなりでいいか？」

（うつっクラスの視線が痛い・・・）

しかしスバルは勇気を出した

「あ、はい。いいですよ」

そしてミソラちゃんが駆け寄ってきた

「ヨロシクね！スバル君！」

満面の笑顔で言ってきた。

「こちらこそよろしく！ミソラちゃん！」

スバルも笑顔で返した

するとミソラちゃんの顔がほんのり赤くなった気がしたけど気のせいだ

大体いまのせきじゅんはこうなっている

[illegible]

「おい！星河！お前ミソラちゃんとどういう関係だ！」

クラスの男子一人がいつてきた
スバルは頭に？マークがついていた。

「どういふ関係ってどういふこと？」

「いや、だからさ、ミソラちゃんが転向してきて初日なのになんでおまえのこと

「スバル君」なんていうんだよ」

「だってブラザーだもん♪」

ね！スバル君！」

「え、うんそうだけど」

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

事情を知らないクラス全員がおどろいた。

「おい！星河おま、もう授業始めるぞー！」

「ふうゝあぶなかったあ」

スバルは胸をなでおろしていた
そのときミソラはスバルにこういった

「あ、そうそうスバル君」

ミソラがたずねてきた

「何？ミソラちゃん」

「後で屋上に来て、」

「？なんで？」

「いいからいいから」

「うん。わかった」

この話を聞いていた委員長はハツとなった
そして2人についていくことにした

~~~~~

「起立！礼！さようなら！」

「~~~~~さようなら！~~~~~」

授業が終わってぼくらは質問攻めだった

「おい！星河！なんでミソラちゃんとブラザーなんだよ！  
2人に接点ないだろ！」

「そういわれるとそうだけどさ」

「別にいいじゃん！！！！そんなのどうだって！！！！！」

なんと口を開いたのはミソラだった  
そして男子達はだまつた

「もういこ！スバル君！」

「え？あ、ちよつと！」

半場スバルは引きずられていく形で教室をでていった

## 第2話 屋上での出来事（後書き）

『勝負だ！作者！』

なんで？

『俺が勝つたら出番ふやせ！！！』

ああ、そゆことが、

だ・が・断・る

『てめえ！逃げるのか？』

仕方ないなあ

トランスコード！ペンソールサクシャ・ノックマン！！

『おい作者！ノックマンってなんだ！？』

作者と作者のウィザードのイーノックが電波変換したのさ！

『ぬぬぬ・・・』

『（そうだ！これなら・・・）』

『そんな名前で大丈夫か？』

大丈夫だ、問題ない。

『よっしゃああああ！！！！今フラグたてたな！！！！』

・・・・・・もう長いんで次話に持ち越しますね

それでは！『あ、おい！にげるのか？』

### 第3話 屋上での出来事②

「え？あ、ちよつと！」

スバル達が教室を出てからすぐに男子達がおいかけようとしたが委員長が引きとめた

「お止めなさい！」

「どういっつもりだよ委員長！！」

男子が言った

「どういっつもり・・・じゃないでしょ！ あなた達のせいでミソラちゃんはおこったんでしょ？」

「俺達はただ2人の関係について聞いてただけ・・・ってあ！」

「そう。あなた達は人の言いたくない部分まで深入りしすぎたのよ。」

「みんなは知っているか知らないけどミソラちゃんには両親がいないのよ」

男子達は驚きの表情を隠せなかった

「そしてスバル君にも父親がいなかった時、二人は出会ったのよ」

「ここまでいったらわかるかしら？」

「これ以上二人に深入りしないこと、わかったわね？」

そついうと委員長は教室を出て行った

~~~~~

時間は少しさかのぼり屋上

「ねえスバル君？明日ってヒマ？」

「うん暇だよ」

「じゃあさ、ドリームアイランドに新しくできた遊園地行かない？」

「あれ？ あそこって遊園地なんてあったっけ？」

「ううん、明日からオープンなんだよ」

「へえーそうなんだ、じゃあいこっか」

そのタイミングで委員長が追いかけてきた
委員長はばれないように物陰に隠れた

（なによあの二人、さっきあんなこといったけど……やっぱり
くやしいわ）

「それじゃ8：30分にいこっか」

「うん、わかった」

「僕が迎えに行くから」「いやいいよ迎えに来なくて」

スバルは？だった

「え？なんで？」

ミソラがにっこり笑っていった

「内緒だよ」

「そう？ならいいんだけど」

「それじゃ帰ろっか」

「うん！」

「「トランスコード！！！」」

「シューティングスター・ロックマン！」

「ハープ・ノート！」

青色の光とピンク色の光が空に飛んでいった

「……やっぱり……くやしい……」

委員長はそつつぶやいて屋上を後にした

~~~~~

そのころウェーブロードでは

「ハックシユン!!」

二人が同時にくしゃみをしていた。

「あれ？だれかぼくらの噂でもしたのかな？」

「あはは！へんなの！」

「うん、そうだね！」

二人は笑いあっていた

### 第3話 屋上での出来事ゝゝ（後書き）

『もどってきたか、ノックマン』

ん、ああもち

『続きだ！』

無理 お前じゃ相手にならん

『なんだとてめえ！』

うるさい、喰らえノックバスター！！

『グハツ つつ強い』

3分間まってやる。

『おゝいウォーロックゝ！』

『お！スバルか！ 事情は後で話す！電波変換だ！』

『え？うん、わかった』

『トランスコード！シューティングスター・ノックマン！』

おや？スバル君もきたね

では改めて・・・

3分間んまってやる

（（どこのム〇力大佐ですか（だ）））

ということ次話でゝ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1142ba/>

---

流星のロックマン～光輝く絆～

2012年1月2日21時56分発行